

銀の道探訪マップ④



三次市布野町

三次市布野町く 山家(やまが)町編

赤名峠を下ると三次市布野町横谷に入る。銀の道はここから再び山越えの道を行き、仏ヶ峠(ほとけがたお)を越える。この峠を下りるとようやく布野の宿に着く。布野は陰陽交易の中心地として栄え、町には、現在の国道五四号、明治の道、江戸時代の道の三本の道が通っている。そのうち銀の道は、一番山寄りの狭い道を行く。布野の宿を過ぎると、街道は山際のコースをたどりながら、神野瀬川を渡り、三次市山家町のなだらかな風景の中をいく。

- この区間の主な見どころ
- ・赤名峠
 - ・熊地蔵
 - ・国境碑
 - ・広島鉱山作業所跡
 - ・たたら文化の名残(捨金)
 - ・布野の宿
 - ・鏡ヶ宿古墳
 - ・福泉坊のオオイチヨウ
 - ・中村憲吉句碑
 - ・下布野の道標
 - ・神野瀬川の渡し
 - ・山家一里塚跡
 - ・万右衛門の墓
 - ・殿敷
 - ・仏ヶ峠
 - ・中村憲吉生家
 - ・松雲寺の五輪塔
 - ・千人塚
 - ・知波夜比売神社



万右衛門の事件

赤名峠を超えて、広島県三次市布野町に入った民家の裏手に、「万右衛門」という名を刻んだ小さな墓が建っている。

万右衛門は、大森銀山領の住人で海産物などを売り歩く商人だったが、この赤名峠を超える途中、博打で無一文になった磯五郎に殺されてしまった。犯人は広瀬藩の人間、被害者は大森領の人間、そして事件現場は広島藩ということ、それぞれの藩や代官所の役人が、事件の取り扱いをめぐって、お互い気を遣ったり、思惑があったり、右往左往する様子が克明に記録されている。当時の街道の様子を知る上で興味深い。



万右衛門の墓

鏡ヶ宿古墳

布野の町から山側へ三〇〇メートルほど入った所に、不思議な古墳が残っている。一帯は鏡ヶ宿という地名で、かつては四、五基の古墳があったらしいが、現在は二基のみが確認できる。行ってみると、大きな石を組んだ横穴式石室が露出しているのがわかる。出土した須恵器の形から推測すると、この古墳は、七世紀前半頃のものと思われる。見どころは、積み上げられた二メートル上の巨大な平石が圧巻で、別名石舞台と呼ばれている。



鏡ヶ宿古墳

中村憲吉



中村憲吉 (1889~1934)

おくれたる梅雨ぞいたりて田植えすみ
山がはの里しずかになりぬ

中村憲吉は有名なアララギ派の歌人で、布野で生まれた。

生家は布野町の中心街にあり、父が金融業のかたわら田畑の集積を行い、田畑五〇ヘクタール、山林五〇ヘクタールの大地主であったことから裕福な家庭で育っている。地元小学校を卒業し、三次中学校(現在の三次高校)を出て、東京大学に入学した。布野に帰郷してからも作歌活動を続け、特にふるさとの自然や人々の暮らしを題材にしたあたたかい作品を作ってきた。



中村憲吉の生家

〔生家見学は事前に予約が必要、電話〇八二四(五四)一〇八八〕

捨金とたたら文化

たたら製鉄業は、人の経験や勤にたよるところが大で、神の加護を祈りながら作業が行われた。たたら神様として金屋子神が有名だが、この神様は桂の木を伝って降臨するとされ、金屋子神社と桂の木は、たたら関係者に大切にされてきた。

また炉の中に残った最後の溶鉄は、人のために使わないで神に捧げるものとして流し捨てることも行われていた。この鉄のことを捨金といい、布野町生涯学習センターの庭の一角にこれが残っている。



捨金

荷車の歌

昭和三四年に映画化された有名になった「荷車の歌」は、赤名峠に向かう横谷村を舞台としている。主人公の「セキさん」は明治三〇年代、実際に荷車を引いて、三次まで物資を運ぶ仕事に携わった女性をモデルとし、作者である山代巴が書き上げたものである。当時の過酷な労働環境の中で、懸命に生きる女性の一途さ、たくましさで紹介され、全国の農村女性に多くの感動を与えた。

銀の道周辺には、その女性が住んでいたという場所や、奉公先である「殿敷」という古民家も残っている。



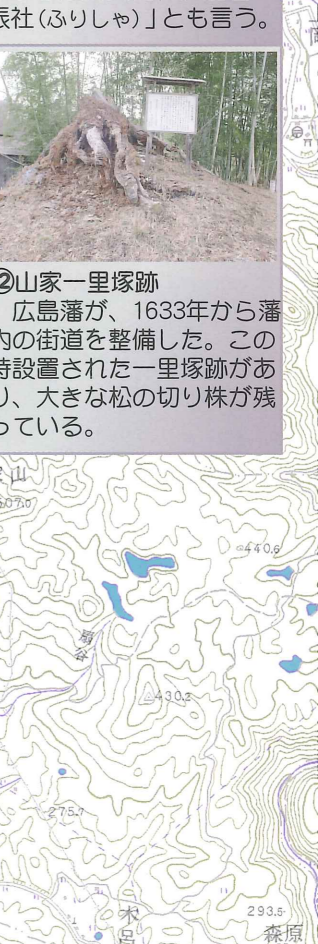
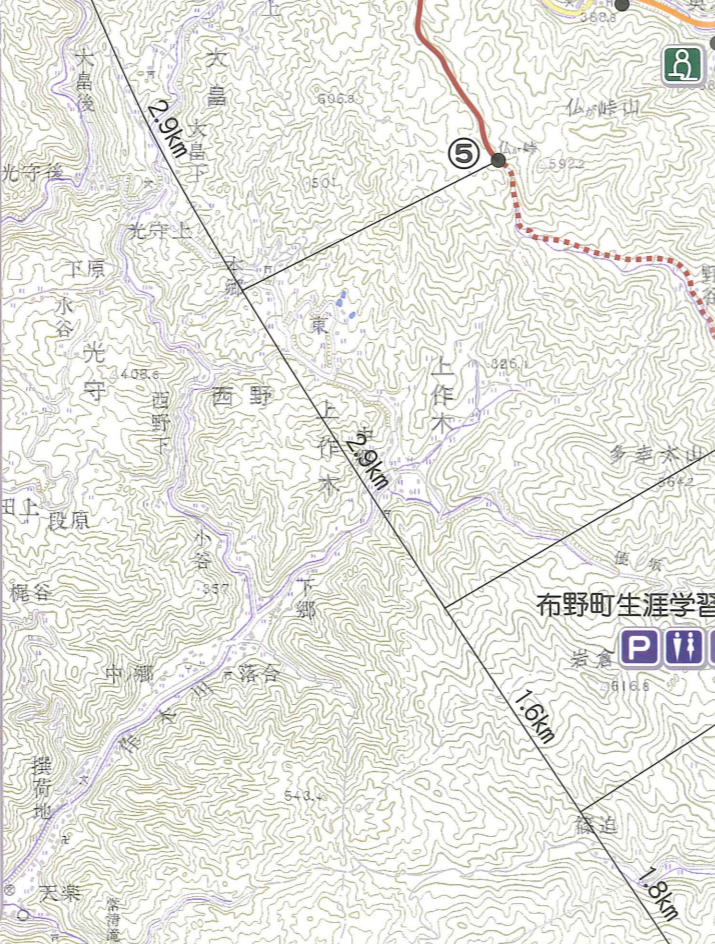
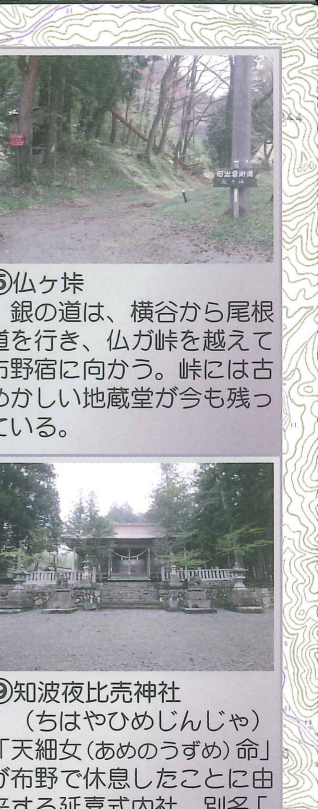
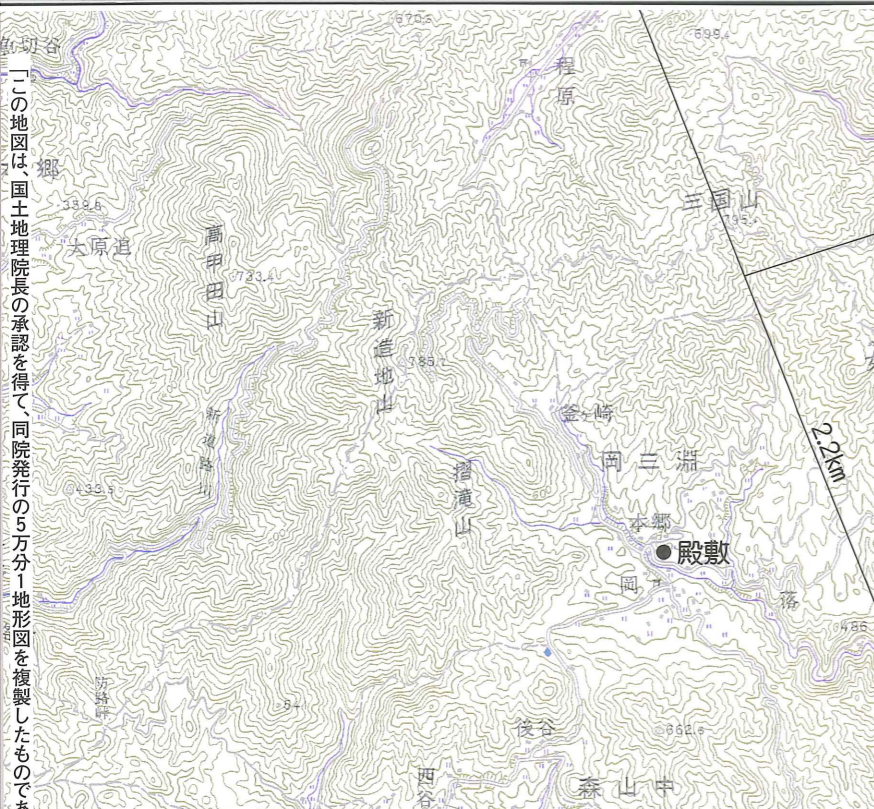
殿敷

主な連絡先

- 三次市役所布野支所 0824-54-2113
- 布野生涯学習センター 0824-54-2119
- 道の駅ゆめランド布野 0824-54-2929
- 中村憲吉生家 0824-54-1088

銀の道関連ホームページ

- 江の川文化圏会議 銀の道探訪
<http://www.chusankan.jp/gonokawa/roman/HISTORY/>
- 道紀行温泉津から尾道笠岡 布野村 中国新聞
<http://www.chugoku-np.co.jp/tokusyuu/mitikikou/m020728.html>



凡例

	銀の道 (車) ※1		車輦迂回路
	銀の道 (歩) ※2		おもな施設
	道標・石碑		駐車場・駐車可能場所
	常夜灯		トイレ
	地蔵・石仏		トイレ (車イス可)
	辻堂・祠		レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道 (道路幅も狭く通行困難な部分あり)。※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む (家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり)。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様 注意して運転して下さい。

2006.4

①赤名峠
出雲と備後の国境で、昔から難所として知られていた。当時の街道は、赤名トンネル手前から急な坂を上るように進んでいた。

②万右衛門の墓
肴売り万右衛門が磯五郎に殺され金を奪われた事件は、現場が藩境で天領にもからみ、解明が難しかったという記録が残っている。

③熊地蔵
言い伝えでは、熊を飼育していた人が建立したという。地蔵の場所は、一里松があった所で、辺りには古道が昔のまま残っている。

④国境碑
江戸時代、赤名峠に建てられていたもの。一度取り替えられたこともあり、今は2本とも瀬戸八幡宮境内に置かれている。

⑤仏ヶ峠
銀の道は、横谷から尾根道を行き、仏ヶ峠を越えて布野宿に向かう。峠には古めかしい地蔵堂が今も残っている。

⑥布野の宿
瀬戸内と山陰を結ぶ広島藩最北の宿駅で、陰陽交易の要衝として早くから町が形成されていた。当時の道筋が市街地に残っている。

⑦福泉坊の大銀杏
福泉坊は布野を治めていた仁井家の菩提寺で、境内のイチョウは胸高周6.5mあり、1770年前後の植栽と伝えられている。

⑧松雲寺の五輪塔
松雲寺には、1322年建立の五輪塔がある。銘のある五輪塔では広島県最古のもので、県重要文化財に指定されている。

⑨知波夜比売神社
(ちはやひめじんじゃ)「天細女(あめのうずめ)命」が布野で休息したことに由来する延喜式内社。別名「振社(ふりしゃ)」とも言う。

⑩下布野の道標
かつて下布野一帯は湿地帯であり、沼地をさけるため街道はこゝらあたりから山に入り、三次の山家地区へと向かう。

⑪神野瀬川の渡し
渡しをこえた三次の山家に、神野瀬原という所があり、川が増水して渡れない山に入り、三次の山家地区へと向かう。

⑫山家一里塚跡
広島藩が、1633年から藩内の街道を整備した。この時設置された一里塚跡があり、大きな松の切り株が残っている。

九日市から約16km
大森から約56km